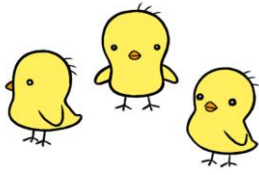


ひよこだよ



東京都立大塚ろう学校
乳幼児教育相談
令和元年 10月 No.6

様々な進路・様々な可能性

10月に入り、過ごしやすい日も増えてきました。秋は、お散歩に出かけて色付いた葉っぱや木の実を集めるのも楽しいですし、さつまいも、栗、梨、柿など、旬を迎える様々な食べ物を収穫したり味わったりもできます。そして、2歳児さん・5歳児さんは、来年度の進路の決定に向けて本格的に動き出す秋でもあります。

都内には、ろう学校が何校あるか御存知ですか？都立ろう学校が4校、私立ろう学校が2校あります。そして、千葉県市川市にある筑波大学附属聴覚特別支援学校に都内から通うお子さんもいます。それぞれのろう学校が特色を活かした教育活動を行っており、進路を考える上で、それを知ることは大変重要と言えます。今月号ではそれぞれのろう学校について、教育の手段や目標と共に御紹介します。

	学校名	設置学部	教育の手段・目標(各校ホームページより抜粋)
都立学校	東京都立大塚ろう学校	本校(豊島区)	幼稚部 小学部
		城東分教室(江東区)	幼稚部 小学部
		城南分教室(大田区)	幼稚部
		永福分教室(杉並区)	幼稚部 小学部
	東京都立立川ろう学校(立川市)	幼稚部 小学部 中学部 高等部 専攻科	
			<ul style="list-style-type: none">■聴覚活用、口話、手話、指文字、身振り等一人一人の特性に応じて多様なコミュニケーション手段を活用する。■心が通じ合う経験を重ねながらコミュニケーションの力の基礎を培うとともに、言語概念を養い、日本語の基礎を育てる。■体験的な活動を通して、日本語の定着と発展を図る。■言語環境を整え、全ての教育活動を通じて言語活動を充実させ、言語に関する能力の育成を図る。 <ul style="list-style-type: none">■残存聴力を活用するとともに、乳幼児期から手話を活用して豊かなコミュニケーションができる指導を行う。手話によって言語概念等を育て、これを、口話(発音・発語、読話)、指文字、文字等の日本語と結び付ける指導を行う。■人工内耳装用児や軽・中等度難聴児についても、音声言語とともに手話も活用したコミュニケーションができるように指導している。 <p>*令和4年度には、立川学園特別支援学校(仮称)として聴覚障害教育部門と知的障害教育部門を併設する学校となります。</p>

	東京都立 葛飾ろう学校 (葛飾区)	幼稚部 小学部 中学部 高等部 専攻科	<p>■口話・手話・ICT 機器等の多様なコミュニケーション手段を用いて、子供たち一人一人の障害の特性や発達課題に応じた教育を行い、幼児・児童・生徒の基礎学力の定着・向上や社会性の育成に力を入れている。</p> <p>■幼稚部から高等部専攻科まで、系統的なキャリア教育を推進し、働くことの意義についてしっかりと学び、自立する社会人を育成するための学校として、日々の教育活動を行っている。</p>
	東京都立 中央ろう学校 (杉並区)	中学部 高等部	<p>■6年間の中高一貫型教育を行い、大学等への進学に対応できる確かな学力と、調和のとれた人間性を育み、社会に貢献できる生徒の育成を目指すことを基本理念としている。</p> <p>■電子黒板を全ての教室に完備し、“見える”授業や校内放送を実現している。一部授業にパソコン要約筆記を導入している。また、全教員が情報保障についての研修を受け、多様なコミュニケーション手段による授業を行っている。</p>
私立学校	日本聾話学校 (町田市)	幼稚部 小学部 中学部	<p>■手話を使わず「聴覚主導」で教育する私立の聾学校であり、「キリスト教精神に基づく」一人ひとりを大切に「人間教育」をめざしている。</p> <p>■乳幼児から中学卒業まで一貫して聴覚主導の教育を行っている。最適に調整された補聴器や人工内耳を使って、残された聴力を最大限に生かして学ぶ。</p>
	明晴学園 (品川区)	幼稚部 小学部 中学部	<p>■耳の聞こえない子、聞こえにくい子を、手話と日本語の二つの言語で教育するため、2008年に開設された私立ろう学校。「バイリンガルろう教育」とよばれる教育方法を基盤としている。</p>
国立大学法人	筑波大学附属 聴覚特別支援学校 (千葉県市川市)	幼稚部 小学部 中学部 高等部 専攻科	<p>■聴覚障害教育の実践を通じて筑波大学の教育研究に協力する附属学校として「聴覚障害教育の可能性の追究」「実践的研究の推進」「教育実習及び現職教育」という使命をもっている。</p> <p>■国内唯一の国立大学法人の聾学校であり、幼稚部・小学部・中学部・高等部・専攻科までの「一貫した教育」を行っている。</p> <p>■聴覚を活用し、個々の状態や発達段階に応じた指導法を駆使している。</p>

また、ろう学校以外の進路先として地域の園や学校(難聴通級指導教室の併用含む)もあり、成長の節目に様々な選択肢の中から進路を決定していくことになります。そして、ろう学校卒業後の進路についてですが、大学等への進学や就労と選択肢は多岐にわたります。特に、大塚ろう学校は幼稚部・小学部の学校なので、小学部6年生の時にも進路を選択する必要があります。子供たちは、自分を見つめ、自分自身と対話し、家族や教員と話し合い、自分の将来を設計します。そのために、4年生から本格的な進路学習を始めます。進路学習を通じて、多岐にわたる道筋を知り、自分の様々な可能性

に気付き、希望をもって力強く歩めるよう、大塚ろう学校では学校をあげて子供たちをサポートしています。

乳幼児教育相談では、大学で聴覚障害学生支援にあたる先生方や、聴覚障害のある現役大学生・社会人をお招きして保護者講座を実施し、進路選択についての実際的なお話をいただいています。今年度は3月9日にも、ろう学校の卒業生をお招きして講座を実施予定ですので、ぜひ御参加ください。

(文責：神谷)